

令和2年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 多紀小学校

校長 押部 匡子

1 学校教育目標等

◇学校教育目標

よく学び よく遊ぶ ～Challenge・Change・Communication～

- 人生をたくましく歩む基礎となる、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を行う。
- マンパワーの育成を通して学校の組織力の向上に努め、児童の成長を育む環境づくりを進める。
- 学校・保護者・地域の協働のもと、関係機関との連携しながら、地域の学校づくりを進める。

2 今年度の重点目標

- 1 「ふるさと多紀」での体験活動を重視し、知・徳・体のバランスの取れた力を育む。
- 2 安全で安心な学校環境づくりを進める。
- 3 家庭と連携した生活リズムの獲得を進める。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力の向上	指導方法を工夫し、すべての児童が分かる授業づくりを進め、確かな学力を身につけさせる。	B	基礎基本についてはほぼ理解できていると回答。指導方法の工夫改善やモジュール学習を確実に実施することで成果につながった。授業の「多紀スタンダード」を基本に児童相互の意見交流で授業が深まる教師の問い返しに重点をおいた授業改善を進める。表現する力の習得に向けては、児童・保護者アンケート共に80%に届かなかった。個別に対応する機会を設け、低学年から基本的な文章の書き方や話型の基礎を身につけられるように授業や家庭学習に取り入れていく。
	家庭学習の習慣化の推進を図るため、懇談や諸通信等で家庭との連携をもとに着実に進める。	B	保護者の3割弱が「やや課題が残る」「改善を要する」と回答している。「篠山東中学校区小・中9年間で身につけたい生活習慣・家庭学習」のリーフレットをもとに自主学習の定義を広げながら、学年に応じて興味を持って考えたり、調べたりできることを具体的に伝え、家庭との連携を図りながら進めていく。
生徒指導の充実	いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図るため、認知・対応能力の向上と組織的な体制の適切な運営、家庭・関	A	事案が起こっていない状況での児童の人間関係と個々の実態の情報共有と生活アンケートの結果からの聞き取り、保護者との連携を大切にスピーディーな情報共有と生徒

	係機関との連携を推進する。		指導委員会での対策決定、役割分担等の対応を通して、これまで認知したいじめ事案が着実に解決につながった。今後も保護者・関係機関とも連携を密に取り、ユニバーサルデザインを考えた環境づくりに力を入れていく。
	自立に向かう生活習慣を身につけるため、3つのあ（あいさつ・あつまり・あとしまつ）を推進する。	A	児童（90%）、保護者アンケート（75%）は達成できたと回答している。児童の主体的な取組を推進したので高学年を手本に低学年にいい挨拶が広がった。しかし、学校外では挨拶ができない児童が多く、今後も継続して取り組む。
地域とともにある学校づくり	地域のゲストティーチャーを迎えたり、校区に出かけたりする機会を作り、ふるさと素材を活用した体験活動を推進する。	A	コロナ禍でも創意工夫し、ふるさと学習に取り組めた。学校・児童（92～100%達成）と保護者（85%達成）のアンケート評価に少し差が見られたが、コロナ禍で活動が困難でも内容を工夫し実施したことやその成果等、適切な情報発信を行う必要がある。
	学校運営協議会を核として地域に開かれた学校、地域とともにある学校づくりを推進する。	A	金管バンドの地域行事への参加については、コロナ対策で地域行事が中止になり実施できなかった。そこで、学校運営協議会の活動として「コミュニティスクール通信」の発行や「多紀っ子応援隊ギャラリー」の設置等を通して児童と地域がつながり学べるようにした。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・「ふるさと多紀」での体験学習は、「達成できた」という回答が多く、適切な取組ができた。
- ・安全・安心な環境づくりについて、学校の安全点検を通して、学校職員とは違う視点で改善点を提案することができた。今は怪我をしないように未然防止のため禁止することが多く、体験から学ぶことが学校でも家庭でも減っている。自ら危険回避する力をつけるための教育を工夫したい。
- ・保護者の半数近くが早寝早起きが課題であると回答しているが、児童は約9割が「ほぼ達成できた」と回答しており、保護者と児童との回答のズレが生じている。児童自身が課題と感じていないのかもしれない。学校と家庭の更なる連携が必要で、PTAを巻き込んで取り組みを進めてはどうか。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・挨拶は人と人をつなぐ大切なものとして地域でも取り組んでいるが、大人も挨拶ができているか、子どものお手本になっているかを意識したい。挨拶を含め、言葉遣いやコミュニケーション力を育てたい。
- ・子どもを共に育てる立場として、学校と保護者の回答結果に大きくズレのあるアンケート項目に使われている言葉の認識を学校と保護者で共通認識しておくほうがいい。
- ・これからGIGAスクール構想が推進され一人一台タブレットが導入されるが、これにより児童の

教育の質の向上と教員の過度な負担軽減につながる人的、物的な環境作りを進めてほしい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数を活用して、特に高学年は一人一人がいろいろな場面で話す機会があり表現力が鍛えられた。 ・読めるけど書けないことが増えた。「話す」「書く」、読書の機会も大切にしてほしい。 ・家庭学習については、保護者はドリルや漢字練習のようなスキルの学習をすることを思い浮かべるが、観察や興味関心のあることの調べ学習等の具体的事例を紹介して保護者と連携し家庭学習の幅を広めていってはどうか。 ・「篠山東中学校区小・中9年間で身につけたい生活習慣・家庭学習」のリーフレット掲載の3つの「あ」（あいさつ・あつまり・あとしまつ）、3つの「ま」（まいにち・まじめに・まっさきに）を周囲の児童クラブや学習塾と共有してほしい。
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対応の項目で、児童の約1割、保護者の約2割がやや課題が残ると回答しており、今後も個々が安心できる支援・相談体制を整える必要がある。 ・児童がスクールカウンセラーに話したいけど一歩が踏み出せない子もいるのではないか。今のところ悩みがなくてもスクールカウンセラーと1分でも2分でも個々に話す機会が持てればいいのではないか。 ・遅寝の大きな原因であるインターネットやゲームのルールを家庭で子どもとしっかりと守っていくことが必要である。 ・学校ではできているのに家ではできない、といったことがあるが、子どもは学校と家庭で行動が違う場合があるのが当然だと思う。このことは、逆に良いことではないかと考えている。親にたくさん甘えてエネルギーを蓄えて外で思いっきりがんばれるのではないか、このようなことを保護者と共有していったらいいと思う。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を取りながら、「多紀っ子応援隊」のゲストティーチャーを活用した地域から学ぶ場を持つことができた。「多紀っ子応援隊ギャラリー」で地域とつながりながら地域を知る機会となり、地域としては具体的に見える形での応援をすることも大切である。 ・学校からの大切な文書を子どもから保護者に届いていないのはよくない。確実に届くように配布日を金曜日にして保護者も家庭で「手紙ある？」と子どもに声をかける等して改善する必要がある。 ・広い校区で児童の居住しない地域が多いので、地域の有線放送で学校情報を発信しているのは有効である。学校や子ども達に関心が湧いてくる。 ・小中連携を推進していくために、例えば小学校5、6年担任と中学校の国語の先生と懇談といったように、小中の教師が雑談形式で懇談をしてもいいのではないか。